

北海道の翼 | 株式会社AIRDO

統合レポート 2023



25年間の感謝を込めて Always with Hokkaido

1998年12月20日の初便就航から25年。長いようであつという間の25年間でした。

創業以来、「北海道の経済活性化」、「低価格運賃による航空需要の拡大」を独自の使命とし、常に「北海道のために何ができるのか」を考え、実現のため挑戦を続けてきました。

現在に至るまでには、厳しく高い壁が立ちはだかることもありました。

航空業界史上最大の危機ともいわれた新型コロナウイルスの影響はAIRDOにとっても甚大で、回復にはとても険しい道のりが続いています。

しかし、困難のたびに多くの皆様に支えられ、困難のたびに社員一人ひとりが結束を強くし、ここまで成長することができました。

25周年という節目を迎えたいま、目まぐるしく変わりゆく環境の中で、今一度「北海道の翼」としての存在意義を見つめ直し、これまでの皆様への感謝と新たな決意を翼に込め、次なる30年、さらにその先へ向かってこれからも全力で翔び続けます。

AIRDOの挑戦はまだまだ続きます。



CONTENTS

- 01 25年間の感謝を込めて
- 03 社長メッセージ
- 04 会社概要・組織図・役員紹介
- 05 企業理念・安全行動指針・CS行動指針・ブランドメッセージ
- 06 AIRDOの価値創造プロセス
- 07 SDGsへの取り組み
- 08 中期経営計画ローリングプラン
- 09 安全
- 11 運航
- 13 整備
- 15 商品・サービス
- 17 ブランド・CX
- 18 マーケティング・営業
- 19 地域価値創造・CSR
- 21 CS - お客様満足-
- 22 経営企画・IT推進
- 23 人財・組織
- 24 コーポレートガバナンス
- 25 財務状況

[RegionalPlus Report]

- 01 ご挨拶
- 02 企業情報
- 03 グループ会社紹介
- 04 路線展開

AIRDO統合レポート2023

制作・監修／株式会社AIRDO 総務部広報グループ
印刷／株式会社須田製版
表紙・撮影／井上浩輝（オフィス イノウエ）、AIRDO

【編集方針】

AIRDOはステークホルダーの皆様に対する説明責任の観点から、対話に代わる手段として本レポートを位置付け、非財務情報をお伝えすることを目的に編集しています。

Webサイトはこちらから
www.airdo.jp



このパンフレットは、環境配慮型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO₂削減活動並びに東日本大震災被災地復興を応援しています。

● 社長メッセージ



本年6月にAIRDOの代表取締役社長に就任いたしました鈴木貴博です。人口減少・高齢化等北海道を取り巻く厳しい経済・社会環境のもと、航空業界における最大の危機ともいわれるコロナ禍で苦境に立たされた「北海道の翼」の舵取りを委ねられる立場となることに、身の引き締まる思いです。関係各位のご高配により最悪な期間は乗り切ったと認識しておりますが、新たなリスクや環境変化に対応できるよう健全な自己資本の充実に努め、強い会社をつくってまいります。

2023年3月期の決算において、お陰様で3年ぶりの黒字を計上することができました。2022年下期から急速に回復した需要は今年度に入ってもその勢いは変わらず、多くのお客様にご利用いただいておりますことから、2年以上続いた様々な行動自粛から開放され、旅行や帰省のニーズの高まりを強く感じているところです。その反面、急速な円安と原油価格の高騰、物価上昇等の影響を受けて、運航費用をはじめとしたコストが増加しており、当社が置かれている様々な状況と相まって前途はなお険しい道のりであることを覚悟しておかねばなりません。

昨年改訂された2023年度～2026年度中期経営計画は、新たなスローガン『コロナ禍からの「反転攻勢」による躍進へ』を掲げ、旅客需要の積極的な取り込みや、次期小型機の選定と導入準備、

並びにソラシドエアとの協業の着実な推進等、将来の飛躍に向けた新たな段階を迎える計画と位置づけています。

また、中期経営計画策定を機に、「もっと身近に、もっと上質に、空の旅を通じて人々の心を豊かに」というブランドビジョンを策定すると共に、北海道各地の経済活性化を目指した取り組みとして、本年3月、女満別空港の立地する大空町様との包括連携協定を締結しました。春からは、公式オンラインショップ「AIRDO Online Marché (エア・ドウ オンライン マルシェ)」、機内エンターテインメント「Do Sky On-Demand (ドウ スカイ オンデマンド)」で、道産食品・製品の販売、北海道ゆかりの番組配信と北海道のPR活動をスタートさせる等、コロナ禍を乗り越え、明るい未来を創造するために新たな取り組みが始動しており、引き続き北海道と共に全力で取り組んでいく所存です。

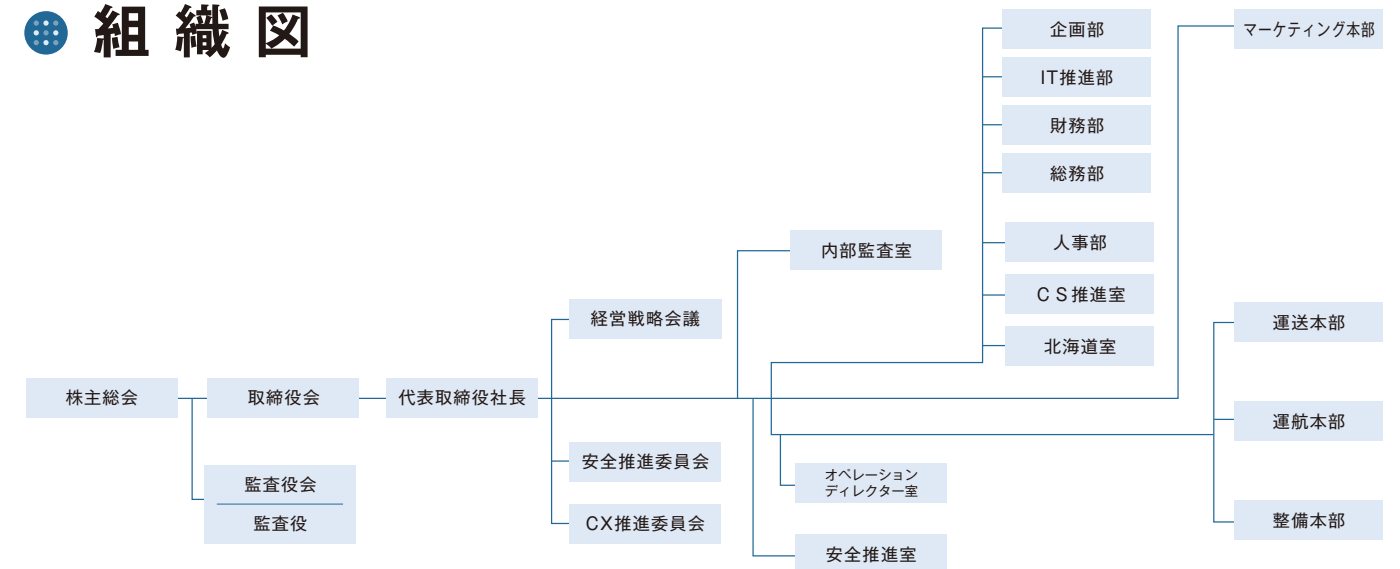
あわせて、これからも皆様にご安心、ご満足いただける空の旅をご提供するため、常に安全管理体制の強化を最優先に、定時性確保等運航の品質やサービスの向上に努めてまいります。

本統合レポートは、社内各部門の取り組みや環境・CSR活動、コーポレートガバナンスといった非財務情報を中心に紹介し、株主、お取引先、地域社会の皆様との対話のためのツールとして作成いたしました。これからも「北海道の翼」AIRDOに変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

● 会社概要

商 号	株式会社AIRDO (AIRDO Co.,Ltd.)	資 本 金	1億円
設 立	1996年11月14日	事業内容	定期航空運送事業
所 在 地	本社／札幌市中央区北一条西2丁目9番地 オーク札幌ビルディング 東京事業所／東京都大田区羽田空港三丁目3-2 第1旅客ターミナルビル	従業員数	1,058名 (2023年10月1日現在)

● 組織図



● 役員紹介

取 締 役					監 査 役		
代表取締役社長 鈴木 貴博	取締役副社長 手嶋 通晴	取締役 岡本 達也	取締役 中園 幸男	取締役 安廣 孝史	監査役(常勤) 平尾 清之	監査役(非常勤) 長野 実	監査役(非常勤) 箕輪 留以
取締役会議長 経営戦略会議議長 安全推進委員会委員長 CX推進委員会委員長	企画 総務(総務、羽田業務) 人事、IT推進 マーケティング オペレーションディレクター 運送 総括	安全統括管理者 安全推進委員会副委員長 安全推進、整備 総括	運航 総括 運航本部長	財務、北海道室 総務(広報、 法務・リスクマネジメント) CS推進 総括	社内監査役	社外監査役	社外監査役
執 行 役 員							
執行役員 矢野 伊知郎	執行役員 月井 秀樹	執行役員 池田 直樹	執行役員 三宅 啓文	執行役員 高松 裕史	執行役員 久安 直	執行役員 平良 英人	執行役員 西山 猛
安全推進室長	運航本部副本部長	人事部長 総務部長	企画部長	運送本部長	北海道室 財務 担当	整備本部長	マーケティング本部長

❶ 企業理念・安全行動指針・CS行動指針

企業理念

安全を絶対的使命として追求します
お客様に感動していただける空の旅を提供します
コスト意識を持って企業競争力を強化します
人を活かし育み、活力ある企業風土を創造します
北海道の翼として地域社会の発展に貢献します

安全行動指針

判断・遵守

曖昧な判断はせず、
確信がない場合は安全を最優先に行動します

報告・共有

情報は迅速かつ的確に報告し、
組織を超えて共有します

理解・傾聴

周囲の意見に耳を傾け、
自分の考えを声にして、
コミュニケーションを大切にします

プロ・使命

教訓から学び、自覚と責任を持って
プロフェッショナルとしての技倆を高め続けます

CS行動指針

お客様のために、
高い志と情熱を持ち、
自分ができることを考え抜いて行動します

お客様のために、
強いチームワークで、
期待を超える満足を創造します

お客様のために、
北海道の翼として、
新たな価値の実現に挑戦し続けます

❷ ブランドメッセージ

BRAND

VISION ▶ 『もっと身近に、もっと上質に、空の旅を通じて人々の心を豊かに』

私たちのありたい姿

BRAND

CONCEPT ▶

お客様との約束

Frontier Spirit

私たちは、北海道で生まれた航空会社です。
創業から脈々と受け継がれてきた精神、
それは「Frontier Spirit」です。
この精神を胸に、自由な発想で、
不断の挑戦を続けていきます。

New Value

私たちは、手の届きやすい価格と
上質なサービスの両立を叶えます。
「すべてが、あなたにとってちょうどいい」
世の中に新しい価値を提供する
「New Value Carrier」です。

Our Hospitality

私たちは、さり気ないけど
あたたかい「おもてなし」を
大切にしています。
ここにしかない上質な空間を、
そして安心を、もっと身近に。

TAGLINE

▶ 『北海道の翼』 北海道で「生まれ育った」翼として、北海道の魅力を日本中、世界中に伝えていくことはAIRDOの使命です。
私たちはAIRDOブランドを形にしお届けすることで、その使命を果たしていきます。
どんな時であっても大空を飛び続け、「道内では、地域の誇りや愛着を呼び起こし」
「道外では、存在そのものが北海道を表わす」航空会社になる。その覚悟を示した言葉です。

❸ AIRDOの価値創造プロセス

AIRDOでは、「企業理念」および「安全」「CS」における2つの行動指針のもと、各種資本を効率的に活用した事業活動により、「北海道の翼」として独自の航空輸送サービスを提供しています。

継続的な価値創造を通じて、北海道に根差した航空会社としての企業価値の最大化と、持続的かつ安定した成長を目指していきます。



投入資本・創造価値(年度実績)		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人的資本	従業員数(人)	864	887	928	931	1,004
財務資本	財務状況(p.25)をご参照ください。					
無形資本	My AIRDO会員数(千人)	730	794	815	863	939
社会・関係資本 *ANAへの座席販売分は含まず	運航便数(便)	21,093	21,470	13,536	18,967	22,509
	提供座席数(千席)	2,835	2,969	1,554	2,433	2,935
	有償旅客数(千人)	2,129	2,038	580	1,162	2,041
	座席キロ(千席キロ)	2,668,468	2,786,072	1,465,586	2,295,617	2,787,239
	旅客キロ(千人キロ)	2,003,743	1,912,774	547,830	1,091,204	1,942,133
	座席利用率(%)	75.1	68.7	37.4	47.5	69.7
製造資本	機材数 B767(機)	5	6	4	4	4
	B737(機)	9	8	8	8	8
自然資本	燃料消費量(キロリットル)	125,164	129,597	68,566	101,809	128,467

投入資本(インプット)

ビジネスモデル

提供サービス (アウトプット)

創造価値 (アウトカム)

人的資本

▶ 1,004名※1の人財・従業員

財務資本

▶ 総資産 41,349百万円※2
▶ 純資産 10,359百万円※2

製造資本

▶ 2機種(B767/B737)による
運航体制
▶ 12機の保有機材
B767-300ER……………4機
B737-700……………8機

無形資本

▶ 運航に係る許認可
▶ 「北海道の翼」としてのプレゼンス
▶ 939千人※1のMy AIRDO会員

社会・関係資本

▶ 地域社会を含むステークホルダー

自然資本

▶ 128,467キロリットル※3の
航空燃料

※1 2023年3月31日現在
※2 2022年度末
※3 2022年度実績

企業理念

安全行動指針

CS行動指針

ブランドメッセージ

中期経営ビジョン

“北海道の翼 AIRDO”として、地域に根差した新しい価値を
提供するとともに、ソラシドエアとの協業と共創により、
財務基盤を強化し、成長軌道への通筋を確かなものとします

事業活動

安全 [p.9・10] 運航 [p.11・12]
整備 [p.13・14] 商品・サービス [p.15・16]
ブランド・CX [p.17]
マーケティング・営業 [p.18]
CS お客様満足 [p.21]

事業を支える基盤

経営企画・IT推進 [p.22] 人財・組織 [p.23]

ESG課題への取り組み

環境(Environment)、社会(Social)

地域価値創造・CSR [p.19・20]

ガバナンス(Governance)

コーポレートガバナンス [p.24]

▶ 22,509便※1
の運航

▶ 2,041千人※1
の輸送

※当社販売座席分のみ

▶ お客様における
経験価値

▶ その他
(貨物輸送等)
※1 2022年度実績

財務価値

▶ 営業収入 41,509百万円※1
▶ 営業利益 2,616百万円※1
▶ 当期純利益 4,222百万円※1

社会価値

▶ 11路線・64便/日※2の航空路線
▶ 直接・間接的雇用の実現
▶ ステークホルダーへの
付加価値提供
▶ 地域社会との共生

顧客影響

▶ 北海道ホスピタリティ
(機内・空港・Webサービス)
▶ ブランド体験機会
(公式オンラインショップ・
機内エンターテインメントサービス)
▶ 顧客満足度 73.8ポイント

自然影響

▶ 二酸化炭素の排出、
騒音への対応
▶ その他の産業廃棄物への対応
▶ 環境保全の取り組み
(植樹・育樹等)

※1 2022年度実績
※2 2023年10月1日現在

ビジョン実現のための継続的な価値創造

SDGsへの取り組み

2030年までに達成すべき開発目標SDGs(持続可能な開発目標／Sustainable Development Goals)。
AIRDOの「北海道経済の活性化のために」という創業時の想いは、「北海道の翼として地域社会の発展に貢献します」という現在の企業理念に引き継がれ、CSR活動に際しては、このSDGsとの関係性を常に念頭に置き、達成に取り組んでいます。
(CSR活動の詳細は「地域価値創造・CSR」のp.20をご覧ください)

CSR活動理念とコミットメント

AIRDOの「CSR活動理念」と「SDGs目標」との関係性、並びにコミットメントは次の通りです。

CSR活動理念	SDGs目標	コミットメント
人を育てる	3 持続可能な開発目標 4 質の高い教育をみんなに 5 性別平等 8 豊かで持続可能な雇用と経済成長 17 パートnership for the Goals	地域社会を支える人財に溢れる豊かな社会の実現に向けて、「北海道の翼」「航空会社」としての知見・リソースを活かしたキャリア教育の機会を提供していきます。
(北海道の)自然を大切にする	8 豊かで持続可能な雇用と経済成長 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 つくばない、減らす、リサイクル 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートnership for the Goals	豊かな自然と共生する北海道の実現に向けて、地域社会との協働による就航地域の自然環境・生物多様性の維持・保全に取り組めます。
社会に貢献する	1 持続可能な開発目標 8 豊かで持続可能な雇用と経済成長 10 人や国の不平等をなくそう 11 持続可能な都市とコミュニティ 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートnership for the Goals	地域社会の持続的な発展に向けて、社会課題解決を通じた地域活性化に取り組むほか、航空会社としてのインフラ・サービスを活かした災害復興支援を実施・継続します。

SDGs目標に向けた取り組み事例

CO₂削減に向けた取り組み

航空会社として、地球温暖化防止に向けた取り組み、とりわけ運航に伴い排出されるCO₂の削減は社会的責務となっています。

主な取り組み内容として、最適な時期でのエンジン洗浄実施および、航空燃料で稼働させる補助動力装置(APU)の利用頻度を減少させることによる燃料消費量の削減、また、飛行計画における燃料効率のよい高度・代替空港の選定や、空域解放時における短縮経路の積極的活用を行っています。

更に、空気抵抗を抑制した上昇方法・運航ルートの短縮・逆噴射の抑制・地上移動時の片側エンジン停止等、安全を確保したうえで運航の工夫※1を取り入れており、また客室内では、一部サービス品の素材変更によるプラスチック削減や、搭載品の軽量化を行っています。

運航以外では、道内就航地域での植樹活動※2等、CO₂削減に向け各部署で継続的な取り組みを推進しています。

これらに加え、燃料効率のよい機材や環境に配慮した航空燃料(SAF)の導入へ向けた検討を重ねています。

※1 2022年度：運航の工夫(4種)により約2,350tのCO₂排出を削減。 ※2 詳細はp.20をご覧ください。

障がい者雇用と子ども食堂への寄贈

AIRDOでは、共生社会の実現に向けた取り組みとして、2019年度から千葉県八千代市に農園の区画を確保し、障がいがある方でも安全・安心に働くことができる全天候型の農園(AIRDO FARM)を開設しており、4名のスタッフが勤務しています。

AIRDO FARMでスタッフが丹精込めて育てた新鮮な野菜は、福利厚生の一環としてAIRDO各事業所へ送り届けるだけでなく、2021年度より〈子ども食堂北海道ネットワーク〉を通じて、北海道札幌市内の「子ども食堂」へ寄贈を行っています。今年度は寄贈先を増やし活動を強化しています。そして、子ども食堂では、それらの野菜を使って調理された食事やお弁当等が提供されています。

これからも「北海道の翼」として、地域社会と連携した取り組みを推進していきます。



エンジン洗浄中の様子



子ども食堂への農園野菜の寄贈

2023～2026年度 中期経営計画ローリングプラン

『コロナ禍からの「反転攻勢」による躍進へ』

昨年策定した2022～2026年度の中期経営計画におけるビジョンをはじめとした、経営指針や事業戦略の枠組は継承しつつも、上記の新たなスローガンを掲げ、旅客需要の積極的な取り込みや、次期小型機の選定と導入準備並びにソラシドエアとの協業の着実な推進等、将来の飛躍に向けた新たな段階(ステージ)と位置づけます。

2022～2026年度 中期経営ビジョン

“北海道の翼 AIRDO”として、地域に根差した新しい価値を提供するとともに、ソラシドエアとの協業と共創により、財務基盤を強化し、成長軌道への道筋を確かなものとしす

■ 中期経営計画の全体像

中期経営計画では、絶対的な使命である「安全」をもとに、AIRDO独自の事業戦略である「ブランド・CX」「サービス・オペレーション」「営業(セールス・マーケティング)」「機材」「ネットワーク」「地域・環境」「人財・組織」「財務」の8つに加え、「ソラシドエアとの協業戦略」から構成されます。なお、「ブランド・CX」と事業戦略は一体の関係にあり、すべての事業領域においてブランドの視点を持ちながら、取り組みを推し進めていきます。

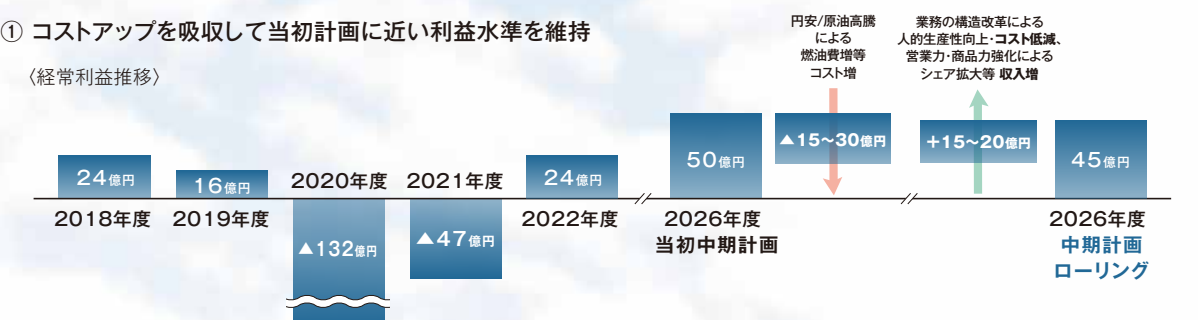


■ ローリングプランにおける重要な2つの視点

2023年度以降も国際情勢の影響を受けた原油価格の上昇や急激な為替変動等により予断を許さない状況が続いています。またより安定した運航体制とすべく、以下の2点をローリングプランの重要視点として設定しました。

① コストアップを吸収して当初計画に近い利益水準を維持

〈経常利益推移〉



② イレギュラー対応力および機材品質の向上

◆イレギュラーリスクを想定した事前・事後の対策やプロアクティブな機材不具合対応を強化します。

◆安定的な輸送体制の構築並びに総提供座席数を拡大する観点から、2026年度中に小型機の新機材を導入すべく、機材更新の準備を推進します。



役割 ● 機能

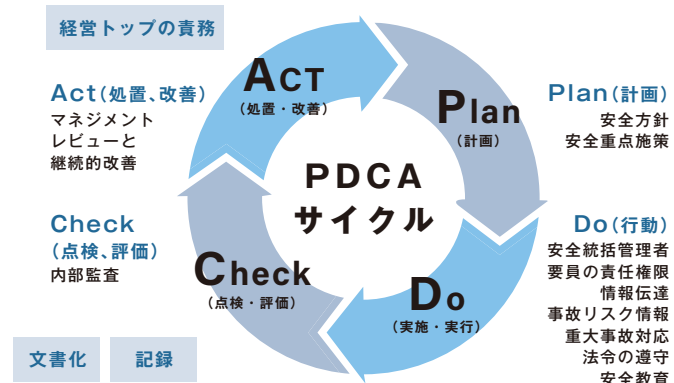
AIRDOでは、航空法にもとづき「安全管理規程」を設定し、安全管理の方針・体制・実施方法を定めています。

この安全管理の方針に従って組織的に取り組む「安全管理システム(SMS)」を構築しています。AIRDOのSMSとは、安全方針にもとづき整えられた体制による運航を実施し、問題の把握と結果の評価から必要な対策を講じ改善するという、安全性の維持・向上を図る一連の活動を継続的に実施する仕組み(PDCAサイクル)です。

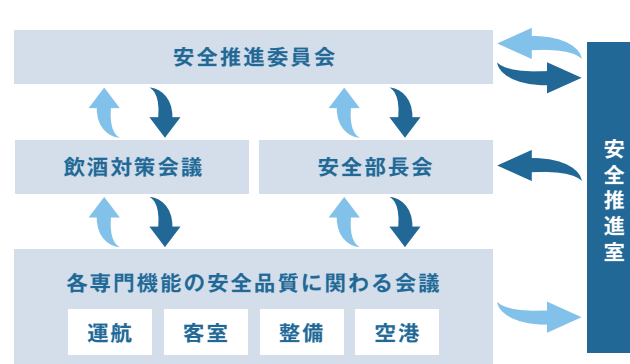
このSMSを効果的に運用するために、運航・客室・整備・空港の4つの専門機能に区分し、機能ごとに安全品質に関わる会議を設定して、安全情報の収集・分析・対応を行っています。

また、専門機能会議の上部組織として、組織横断的な課題に対応するための「安全部長会」と飲酒対策全般を総括する「飲酒対策会議」を設置し、更に上部組織として社長を委員長とする「安全推進委員会」を設置し、全社の安全活動を俯瞰する安全推進体制を構築しています。

■ 安全管理システム(SMS)



■ 安全推進体制



取り組み ● 業務内容

■ 安全啓発活動

- ①「現場とトップの情報認識の乖離を無くす」ために、事業活動の実質的な活動単位であるグループの長(グループリーダー)と航空法で選任が求められる「安全統括管理者」が直接対話する「安全対話」を年2回開催しています。
- ②年に1回外部講師を招いて、「安全意識の高揚」を目的とした安全講演会を開催しています。
- ③安全統括管理者が、社内外で発生した不安全事象や各種の安全活動に基づく「安全統括者メッセージ」を発信し、安全意識の向上に努めています。
- ④安全啓発誌「Safe DO」(2回/年)とリージョナルプラスグループの安全意識の向上を目的にグループ安全情報誌「Safety+」(2回/年)を発行しています。
- ⑤飲酒事案の撲滅に向けた定期教育の実施や意識の向上を図っています。
- ⑥年に1回「安全アンケート」を実施して、従業員の安全意識や安全行動に対する点検を行い、必要な対応を図っています。
- ⑦グループ安全文化の浸透に向けたソラシドエアとの共同安全啓発活動を推進しています。



「Safe DO」と「Safety+」

■ 安全向上への強化項目

- ①**変化のリスクに向けた確実な対応**
事業計画や業務運用等の変更の際には「変更管理」という仕組みを活用し、安全運航に対するリスクの洗い出しと評価を行い、必要な対策を講じることでリスクを許容範囲内に収めています。
- ②**規程・基準の遵守とレビューの実施**
規程・基準の遵守については、各組織において日常的に徹底していることに加え、発生した不具合事象やヒヤリハット等を活用

し、現場で確実に業務ができる規程・基準に改定しています。また全部門で計画的な規程・基準のレビューを実施し、運用との齟齬が無いことを確認すると共に、必要に応じた修正を実施しています。

③ 飲酒傾向の把握と対応

過去に発生した飲酒事案(他社事案も含む)の背景・要因を踏まえ、組織的な飲酒傾向の把握と適切な対応を行いアルコールに関する不安全事象を根絶していきます。

また、アルコールに関する相談窓口の設置や、過去事例の風化防止、組織内の更なる飲酒問題意識向上等の未然防止啓発活動を実施するための「アルコール問題防止サポート体制」の構築を図っています。

④ 安全意識の向上に向けた取り組みの強化

全社員が安全に対するリアルな感度を高めるため、他社の安全啓発施設の訪問、安全講演会等、安全啓発活動に積極的に参加できるよう、情報の周知や機会の提供、促進を図っています。

⑤ 安全監査

内部監査では、年度の安全目標、安全重点施策に沿った監査を実施することで規程・基準の遵守状況や安全管理体制等の課題の把握と改善を行っています。また、委託先監査では、契約に従った業務の履行状況について点検を実施しています。

これらの取り組みにより、いかなる環境下においても安全を堅持します。

■ 2022年度実績

航空事故・重大インシデント*……………0件
*AIRDOは設立以来、航空事故や重大インシデントの発生はありません。



安全推進ガスター

Topics

■ ソラシドエアと合同での安全推進活動

① 「御巢鷹山慰霊登山」の実施

本年5月19日 ソラシドエアと合同で御巢鷹山慰霊登山を実施しました。

② 「安全強化期間」の設定

(本年9月1日～10月31日)

AIRDOでは、過去に受けた行政指導・行政処分(風化防止のため、毎年9～10月に安全強化期間を設定



していましたが、ソラシドエアも行政指導を受ける事象が発生したことをふまえ、両社の不祥事を風化させないために、グループとして「安全」を考える機会を設けるべく合同での安全強化期間を設定しました。

当該期間中、Safety+フォーラム(安全集会と安全講演会)、Safety+(安全情報誌)の発行、SMS定期教育、安全調査アンケート等を合同で開催しました。



運 航



役割 ● 機能

お客様を目的地まで安全運航でお届けする事が運航本部の最大の役割です。そのために、会社の経営方針および安全方針に基づき、運航に関わる基準、訓練、審査方針の策定や訓練計画の立案・実施のほか、中長期的な運航乗務員の安定的な稼働を確保するための採用・育成・稼働計画策定等、航空機の運航に関する業務全般を担い、日々の安全運航の徹底、およびその支援機能を果たしています。

ソラシドエアとの協業においては、運航乗務員の独立性を維持しつつも、運航に係る支援機能の共通化と共用化を推し進める等、全体最適を意識した協業施策により、業務の効率化や安全品質の向上に向けた取り組みを推進していきます。

取り組み ● 業務内容

2023年度経営計画に基づき運航本部の実行計画を策定、以下を重点施策として様々な課題解決に取り組んでいます。

重点 施策

- ◆安全品質の向上とイレギュラー対応力の強化
- ◆採用強化、人財育成の体制構築による稼働力の向上
- ◆労働環境改善と支援体制の構築
- ◆協業による業務連携および改革
- ◆業務効率化によるコスト削減（CO₂削減含む）と業務品質の向上

AIRDOでは運航の安全を第一とし、最良の運航効率をあげ、かつ定時運航に努めると共に、快適な飛行を行うことができるよう積極的に業務を遂行していきます。

■運航乗務員

安全運航を維持するため、運航乗務員の日常的な技倆管理、各種任用訓練や定期訓練を実施することで、安定した運航体制を確保する仕組みを構築しています。

運航乗務員訓練生としての入社後は、運航の支援業務や、旅客部門での業務を経験した後、副操縦士任用訓練（指定養成訓練課



安全の追及に加え、運航品質の向上並びにソラシドエアとの協業をはじめとした業務効率化に向け、これらを実行、支える人財を確保し、『コロナ禍からの「反転攻勢」による躍進』を支えています

程)にて数多くの訓練と審査を経て副操縦士となります。その後、十分なフライト経験を積み、必要な知識を習得するための訓練を受け、当局の審査に加え、社内審査を経て、機長へと昇格していきます。

この一連の過程を支援すべく、副操縦士の日常技倆管理制度の整備のほか、AIRDOの機長に求める要件を身につけるため、機長昇格訓練投入に先立ち適切なタイミングでの教育、技倆の確認等、多様な取り組みを進めています。

■地上スタッフ

航空機を運航するための様々な技術、航空法および航空機メーカーの基準に対応した社内規程の改訂、運航乗務員の資格管理、勤務スケジュール管理等を担当する地上スタッフの能力開発を目的に、各部への配属後は適宜適切に社内教育を実施するほか、航空機

メーカー主催の社外教育や、運航品質・運航分析等のセミナーを受講する等、専門性を重視した人財育成を進めています。

特に、近年は社内教育の充実に注力しており、人財育成プログラムの構築に向けた検証を進めています。



Topics

① 安全品質の向上とイレギュラー対応力の強化

乗員部内に安全品質に関わる「品質サポートグループ」を新設し、実運航を担当する運航乗務員とこれまでの支援機能の連携を更に強化し、安全品質の向上とイレギュラー対応力の強化に取り組んでいます。

② 労働環境改善と支援体制の構築

パイロットピアサポート体制の導入検討をはじめとした労働環境改善と支援体制の構築に取り組んでいます。



③ コスト削減、CO₂排出量削減への取り組み

運航に使用する端末用のコンテンツ作成、配信業務等の内製化によるコストの削減や航空局主催の空港脱炭素化に向けた、航空機ワーキングへ参画し、環境課題への意識を高め、より効率的な航法導入やその他施策によるCO₂排出量削減を推進しています。

④ 運航乗務員の新たな訓練・審査制度の導入

Competency-Based Training and Assessmentプログラムを適用し、同制度のもとで、現在世界でも採用が進んでいるEvidence-based Trainingを2025年度中に導入するべく準備を進めています。

⑤ ソラシドエアとの協業による業務連携および改革

新規路線開設、チャーター便運航に関わるノウハウの共有、訓練教材の共同作成・共同使用等の支援機能の業務連携に取り組んでいます。

⑥ 実機訓練実施地の拡大

悪天候等の事由による訓練への影響を避け、「北海道の翼」としてより安定的な運航乗務員の養成のため、副操縦士任用訓練において求められる、実際の航空機を使用した離着陸訓練を北海道内の主要空港の一つである函館空港で実施しました。



整備



役割 ● 機能

日々の安全運航の堅持とお客様に安心してご利用いただける高品質な機材を提供し、運航タイヤの維持と定時性を確保するため、整備作業品質・整備方式に関する方針策定や日常の運航整備作業、運航機の不具合修復、機材品質の維持向上を行っています。また、絶対的な使命である安全運航の堅持に向け、整備従事者*および整備スタッフに対する人財育成、競争力のある効率的な整備体制を確立するための組織運営や人員配置等、中長期的な視点をもって強化、推進に努めています。



※整備従事者

整備業務は高度で専門的な知識や能力、経験を要することから、作業に携わるためには資格が必要です。入社して社内作業資格を得た後、経験を積みながら、より高度な整備業務が可能となる国家資格「一等航空運航整備士」「一等航空整備士」の取得を目指します。国家資格の取得後、社内訓練や実務経験、審査の合格により「確認主任者」資格が付与されます。また、すべての整備従事者は、知識の維持・向上を図るため、それぞれが持つ資格（確認主任者、整備員、領収検査員等）に応じた定期訓練を2年ごとに実施し、航空法や社内規程の確認、品質管理や領収検査に関する事項、近年発生した不具合事象の振り返り等を行っています。

「いかなる環境下においても安全を堅持する」を最優先とし、将来に向けた大きなチャレンジとコストを意識した生産性向上・業務改革に集中し、お客様にご満足いただける高水準な品質を徹底的に追求します

取り組み ● 業務内容

AIRDO・ソラシドエア両社の整備本部は、2024年度にリージョナルプラスウイングスへ集約し、新たな整備体制へ移行します。新体制は安全が維持向上できる体制の構築を進めていきますが、移行までの準備を通じて、整備本部一人ひとりが新たな価値を創造し、挑戦的な経験を積み重ねることで、自己成長を実現すると共に最適な新整備体制の構築へ繋げていきます。取り巻く環境が変化するなかでも、整備本部が成長・発展し続けていくためには、「安全堅持を最優先に、お客様が満足する基本品質を競争力のあるコストで部門一丸となって提供する」という本部における不変のビジョンのもと、「安全運航の堅持」「ソラシドエアとの協業・共創」「再生と成長への貢献」という3本柱の達成が不可欠であることから、整備機能を担う所属員が一丸となって推進していきます。

① 安全運航の堅持

いかなる環境においても絶対的な使命である安全運航を堅持するため、整備本部では、「機材の安全性・信頼性の高水準維持」と「品質不具合・不安全事象の撲滅」を重点項目とし、以下を設定しました。

- ◆安全に直結する運航不具合の防止
- ◆航空機からの落下物の防止
- ◆安全に直結する作業品質不具合の防止
- ◆変化のリスクに向けた確実な対応
- ◆規程・基準の順守とレビューの実施
- ◆アルコール検知事象ゼロの継続
- ◆安全意識向上へ向けた取り組みの強化

これらの取り組みを確実に実施することでお客様に安全・安心を提供することに努めます。

② ソラシドエアとの協業・共創

整備本部のリージョナルプラスウイングス集約に向け、重点項目として「体制構築に向けた確実な準備」「スムーズな新体制構築に向けた各種活動」を昨年度に引き続き設定しました。これまでAIRDOが築き上げてきた知識・経験をしっかりと引き継ぎ、将来にわたりグループエアラインに貢献できるよう、効率的かつ魅力的な新整備体制の構築に繋げるため、ソラシドエアと丁寧な議論により信頼関係を築きながら取り組んでいます。

③ 再生と成長への貢献

『コロナ禍からの「反転攻勢」による躍進へ』と位置付けた中期経営計画の方針に貢献すべく、戦略的な選択と集中により基本品質・ブランド力の向上・コスト削減に尽力するため、整備本部では重点項目として「機材品質・運航品質・AIRDOブランドの追求」「人財育成と生産性向上・業務改革推進」を設定しました。目標をもったコスト削減、ブランド向上に繋がるプロダクトの提供、自主自立的に考え行動できる人財の育成等を通して、AIRDOの経営計画の達成に貢献していきます。

Topics

●整備士の採用競争力強化に向けた取り組みの推進

整備本部では、採用競争力強化のため、整備の仕事の魅力をより多くの学生に発信すべく、全社採用活動に加え、以下3つの取り組みを実施しています。

- ◆整備部門インターンシップの開催
- ◆整備部門会社説明会や採用イベントへの参加
- ◆大学・専門学校との連携強化

本年9月に開催した「整備部門インターンシップ」は、会社設立以来、初めての試みでした。参加した学生に航空機整備業務の疑似体験や機体見学等、五感を活用して航空機をリアルに体験するプログラムを提供することで、航空機整備に対する多くの魅力を伝えられる機会となりました。

●Do.Assertion活動

2014年の嚴重注意等を受け、2015年から開始したDo.Assertion活動が、間もなく10年の節目を迎えます。一方的に自分の意見を押し付けるのではなく、発信を躊躇・我慢するのではなく、互いを尊重しながら率直に小さな気づきや自身の考えを伝えることで「ヒューマンエラーの撲滅」に加え、「仕事の質を高める」「コミュニケーション豊かな組織風土・文化」を育て、リスクに強いプロ集団をつくり上げることを目指しています。



インターンシップの様子

商品・サービス

きめ細かなサービスを提供し、すべてのお客様が快適に利用できる環境を

役割 ● 機能

運送本部は、ご利用いただくお客様に直接サービスをご提供する空港・客室業務に加え、航空保安の徹底およびお客様ニーズの取りまとめを担っています。また、安全に運航するために運航ダイヤのコントロールやフライトプランの作成、航空機が離陸して着陸するまで地上から運航を支援する等、お客様にとってより良いサービスと快適な空の旅を提供すべく、各部室店が連携し業務を行っています。

取り組み ● 業務内容

AIRDOでは安心をお届けするために、以下のような教育や訓練等を定期的に実施しています。

■客室乗務員



客室乗務員には、お客様に安全かつ快適な空の旅を提供する使命があります。機内においては安全を絶対的の使命とする保安要員であり、入社後約3カ月間にわたり必要な各種訓練と社内審査を受け、合格した後に乗務資格を得ることができます。

また、資格取得後も定期訓練と審査が毎年義務付けられ、技術維持と向上に向けた不断の努力が求められます。

お客様に安心してご利用いただけるよう、一人ひとりが安全に対する意識を高めながら自覚と責任を持って、日々のフライトに臨んでいます。

■空港係員

お客様が搭乗する際、空港で最初に出会うことになるのが空港係員です。ご利用いただくお客様のなかには係員のお手伝いやご案内を必要とされる方もいらっしゃいますので、車いす・ベビーカー等を用意しています。なお、便出発の24時間前から、お客様ご自身のデバイスにて搭乗手続きと搭乗券発券ができるサービス「オンラインチェックイン」により、空港に到着後、直接保安検査場にお越しいただけます。また、一部空港においては「自動手荷物預け機」をご利用いただけます。機内までストレスなくスムーズにご搭乗いただけるよう、引き続き利便性向上を図っていきます。

■地上運航従事者



運航管理業務は、運航乗務員と連携して航空機の運航方針を決め、安全に目的地に到着するまでの支援を行います。専門的知識や技能、資格が必要です。「運航管理者」の社内資格は、まず、「運航支援者」として経験を積んだ後、国家試験に合格し、更に社内訓練や審査を経て付与されます。発令された後も、当該資格に必要な知識および技能水準の確認を目的として、毎年、定期資格審査を実施し、運航管理業務に必要な知識および技術が維持されている事を確認しています。

■機内サービス

機内では、北海道にこだわったフリードリンクサービスや機内販売商品を提供しています。北海道北見地方産のたまねぎを使用したオニオンスープ、北海道産ほたての香りと旨みたっぷりのほたてスープ、珈房サッポロ珈琲館のドリップコーヒーは、機内でも販売しており大変ご好評いただいています。また、北海道二条大麦を使用したノンカフェインのオリジナル麦茶が、ドリンクサービスの定番として昨年より加わりました。（※機内販売については、変更する場合があります。）

なお環境に配慮した取り組みとして、機内サービス品の一部の素材を変更しています。包装袋は植物由来の原料であるバイオマスを使用したエコ素材へリニューアルし、包装袋を不要とされたお客様にはノベルティとしてオリジナルステッカーをお渡しする等、石油資源の節約と地球温暖化防止に向けた取り組みを進めています。



■北海道ホスピタリティ

AIRDOでは機内に入れば、そこに「北海道」を感じていただけるサービスを提供しています。北海道や就航する各地へ旅がしたいと感じていただける情報満載の機内誌rapora、機内オーディオや機内エンタテインメントでは北海道にこだわったコンテンツをお届けしています。また、より快適にAIRDO便をご利用いただけるようサービス介助士、また、北海道をよく知り、学び、お客様とのコミュニケーションを大切にする一助として北海道観光マスター・北海道フードマイスターの資格取得を推進しており、お客様と直に接する運送本部にはそれぞれ268名、81名、31名が在籍しています。（2023年10月現在）



Topics

【2023年度】

AIRDOでは、お手伝いが必要なお客様に快適にご利用いただけるよう、バリアフリー教育に力を入れています。年に一度の全社員を対象としたバリアフリー教育のほか、お客様と接する部門においては、始業時の朝礼で手話を用いた挨拶の唱和等により対応力の強化を進めています。

①ブランドメッセージ制定に伴い、運送本部においても客室乗務員、空港係員共通の「AIRDO STYLE BOOK」を制定しました。客室乗務員、空港係員がお客様をお迎えするうえで統一感を持った制服の着こなし、身だしなみを整え「身近」で「上質」なAIRDOブランドを体現し、お客様をお迎えしています。

②2023年4月よりこれまでの搭乗スタイルを見直し新たな搭乗モデルへと変更をしています。これまでは空港に来られたのち、空港カウンター等で搭乗手続きを実施いただいておりましたが、お客様ご自身のデバイスにて搭乗手続きが実施できるよう

になり、これによりストレスのないスムーズなご旅行を提供しています。

③2022年10月以降、ソラシドエアとのグループ化になった後も、協業の最大効果を得るべく羽田空港においては両社の相互理解を深め係員訓練を深化させ、協業を推進しています。また、2023年6月にはAIRDO、ソラシドエア両社のお客様はもとより、空港係員にとっても使いやすい「AIRDO ソラシドエア 羽田空港カウンター」をオープンしています。



ブランド・CX

私たちのありたい姿「ブランドビジョン」の実現に向けて、お客様との約束である「ブランドコンセプト」を追求しながら、「北海道の翼」としての使命を果たしていきます

役割 ● 機能

CX(Customer Experience:顧客体験)を基軸に、あらゆるシーンにおいてAIRDOブランドの価値をお届けし、北海道の魅力を日本中、そして世界中に伝え「北海道の翼」としての使命を果たすことで、お客様との関係性の維持・拡大を推進するための中・長期的なブランド・CX戦略を担っています。

取り組み ● 業務内容

■ブランド・CX戦略

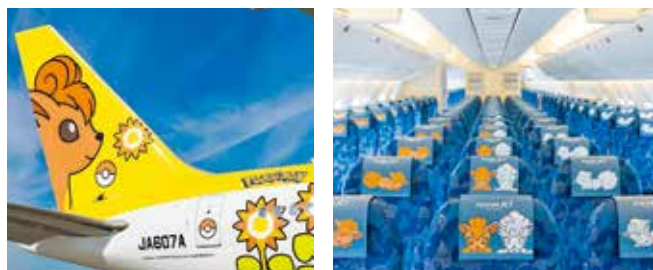
全社員が一貫性のあるAIRDOブランドの体現者となるために、方向性・価値観を共有するためのツール「AIRDO BRAND BOOK(世界観・概念)」 「AIRDO Customer Experience Book(顧客体験方針)」や「AIRDO STYLE BOOK(身だしなみ基準)」を設定し、ブランド・CX戦略を推進しています。また、AIRDOブランドの価値を向上させることを目的とし、利用前から利用後までのお客様の一連の体験を13シーンに分類し、どのシーンにおいても一貫した価値提供を行えるようCXの仕組みを活用しています。この価値が適切にお届けできているか測るべく、定点的に「お客様評価」を測定し、お客様のニーズを常に把握し、商品・サービスの更なる改善・向上に取り組んでいます。「お客様との約束」を定義したブランドメッセージを基軸とする「身近で上質な空の旅」を提供すべく各種取り組みを推進していきます。



■商品戦略

CXの考え方を基軸に、「非接触」「パーソナリ化」等の環境の変化を見据えながら、中期経営計画に掲げる「ブランド体験機会の創出」に取り組んでいます。この目的を実現するプラットフォームとして、2023年3月31日に公式オンラインショップ「AIRDO Online Marché」、2023年4月1日に機内エンターテインメントサービス「Do Sky On-Demand」を開始しました。航空機内はもちろん、機外においても北海道を体験できるサービスの提供に取り組んでいます。

今後もソラシドエアや道内企業等との連携による価値提供に加え、この2つの新たなプラットフォームを発展させてAIRDOブランドの価値を広くお届けする取り組みを推進していきます。



©Pokémon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc.

Topics

■公式オンラインショップ「AIRDO Online Marché (エア・ドゥ オンライン マルシェ)」の開設

AIRDO初となる公式オンラインショップ「AIRDO Online Marché」を2023年3月31日に開設しました。機内販売品をはじめとするオリジナル商品や、機内誌raporaで紹介する商品、「AIRDO×地域」視点の北海道セレクト商品等バラエティに富んだ商品をラインナップし、「北海道の翼」AIRDOならではの北海道体験機会をAIRDO Online Marchéを通じて提供しています。



▲「AIRDO Online Marché」はこちら

■機内エンターテインメントサービス「Do Sky On-Demand (ドゥ スカイ オンデマンド)」の開始

AIRDOが配信する動画等のコンテンツをお客



■「AIRDO Brand movie」の公開

AIRDOブランドの世界観をお届けする「AIRDO Brand movie」を空港カウンターや機内(一部運航便では降機時に放映)、各種SNSで2023年4月から公開しています。AIRDOでは「あたたかいおもてなし」を大切にしており、お客様に「もっと身近に、もっと上質に」空の旅を楽しんでいただけるよう、これからも「北海道の翼」として不断の挑戦を続けていきます。



◀「AIRDO Brand movie」はこちら

マーケティング・営業

多様化するニーズに合わせ、各種運賃やサービス、情報的確かタイムリーにお届けし、お客様にご満足いただける「空の旅」を提供します

役割 ● 機能

お客様のニーズに適した運賃の展開と運用、利用促進を図る販売施策の企画・運用、市場や顧客の把握・分析等のマーケティングリサーチ、環境の変化に応じた営業戦略の立案・実行等のマーケティング&セールス活動を幅広く展開しています。

取り組み ● 業務内容

■マーケティング&セールス

多様なお客様のご利用シーンやニーズに合った適切な運賃・サービスを提供することにより、顧客満足度の向上を図っています。

新たなサービスとしては、AIRDO Webサイトにて出発時刻の24時間前からご搭乗手続きと搭乗券が発行できる新搭乗モデル「オンラインチェックイン」サービスを導入しました。

Topics

■ソラシドエアとの協業

2023年4月、「ふたつの翼から春のプレゼント!SNSキャンペーン」と題し、AIRDOまたはソラシドエアの公式SNS(X(旧Twitter)/Instagram)からご応募いただいた方の中から抽選で、両社航空券を含む賞品をプレゼントするキャンペーンを実施しました。また、2023年10月に共同持株会社リージョナルプラスウイングスが設立1周年を迎えたことを記念し、各種共同キャンペーンを実施しました。両社が共同でキャンペーンプロモーションを行うことで認知拡大を図り、お客様に両社をより身近に感じていただけるよう、今後も様々な取り組みを行っていきます。

両社で販売しているダイナミックパッケージ(旅行商品)では、2022年12月より両社の運航路線の予約手配が可能となり、両社の運航便を乗り継いだ旅程でもご利用いただけるようになりました。また、2023年度においては、更に両社での共同キャンペーンを同時展開し、ご利用されるお客様へ訴求をすることにより、両社のネットワークを活かした新たなお客様の獲得に努めています。



ふたつの翼から春のプレゼント! SNSキャンペーン

■オンラインチェックイン開始

2023年4月1日より、AIRDO Webサイトにてご予約便出発の24時間前からチェックインおよび搭乗券の発行ができる「オンラインチェックイン」サービスを導入しました。



オンラインチェックイン

また、同時に空港空席待ちサービスもオンライン化し、これまで空港で行っていた各種手続きをWebサイトへ拡げること、出発前のご自宅や滞在先および空港への移動中もご利用いただくことができるようになりました。

これからもお客様のニーズを把握し、サービスの更なる向上に取り組めます。

■就航記念事業

AIRDOは、皆様に支えられ、新千歳ー神戸線10周年、新千歳ー福岡線1周年、旭川ー羽田線20周年、新千歳ー仙台線15周年と就航各路線におい

ても就航記念となる節目の年を迎えました。各路線の就航記念日当日は皆様への日頃の感謝の気持ちを込め、空港にて就航各地の銘菓やAIRDOオリジナルグッズ等の記念品をご搭乗のお客様にお配りし、対象便のお出迎えとお見送りを行いました。

今後も「北海道の翼」として、企業や自治体、空港会社との連携を強化し、北海道と就航各地の地域経済の活性化に貢献していきます。



7月1日 新千歳ー福岡線 就航1周年

■地域連携(道東営業支店)

十勝の上士幌町で開催された、北海道バルーンフェスティバルは今年で50周年を迎え、その記念すべき年に初めてスポンサーとして協賛し、熱気球大会出場者および来場者の皆様楽しんでいただけるイベントとなるよう協力しました。また、第一回大会からスポンサーを務めるフードバレーとかちマラソンや、各市町村の四季折々のお祭り等にも提携・協賛しています。



8月11日 北海道バルーンフェスティバル

今後も地域活性化の一助となれるよう、地域に根差した活動を行っていきます。

■地域貢献(北海道ぎょれん様とのタイアップ事業)

2020年度より北海道漁業協同組合連合会(北海道ぎょれん)様と協力し、北海道産ほたての認知度向上と消費喚起の一環として、北海道産ほたてを総合的にプロモーションしています。2022年度より機内販売を行っているほたてスープは、大変ご好評をいただき、通年で販売する定番商品となりました。

AIRDOはこれからも北海道の企業や団体と連携し、協同事業等に取り組んでいくことで、地域産業の振興と発展に努めていきます。



北海道ほたて プレゼントキャンペーン

地域価値創造・CSR

「北海道の翼」として地元密着の企業であることの具現化を通じ、北海道と共に更なる飛躍・成長を目指していきます

役割 ● 機能

「北海道の翼として地域社会の発展に貢献する」という企業理念にもとづき、2022年7月に新設した北海道室では各部室店との機能的な連携を図りながら、地域における価値創造事業とCSR活動を推進しています。また、北海道内各自治体や地域・企業等との窓口として、地元ステークホルダーとの関係構築・強化にも努めています。

取り組み ● 業務内容

■地域価値創造

就航地域における価値創造にあたって、AIRDOでは「地域流動の創出・喚起」「地域資源の発掘・企画」「地域課題の実証・解決」の3つの視点をもって取り組みを推進しています。特に女満別空港の所在自治体である大空町とは2023年3月に包括連携協定を締結し、オホーツクエリアの観光振興や魅力発信に関する事項をはじめ4つの連携事項に沿った取り組みを協働して進めており、今後はほかの就航自治体とも同様の連携を深めていきます。



●地域流動の創出・喚起

地域におけるヒト・モノ・コトの動きを創出・喚起する取り組みです。

大空町が2023年2月に実施した冬季の観光振興事業では、北海道との包括連携協定のもと地域振興に取り組む株式会社ポ



コンコンロン 冬のおおぞらイルミネーション(2023年2月・大空町)

ケモン様の支援を得ながら、AIRDOが全体をコーディネートしました。

また、さっぽろオースタムフェスト実行委員会(事務局:札幌観光協会)とは、本イベントのかねてからの課題である道外における認知度向上を図るべく、連携して「北海道・札幌の食」の魅力発信に努めています。



動画制作による魅力発信

●地域資源の発掘・企画

地域における隠れた価値を見出し、発信・提供する取り組みです。

AIRDO公式オンラインショップ内の「北海道セレクト」では、就航地をはじめ道内各地の商品を「北海道の翼」ならではの目利きをもってご紹介しています。北海道室ではその商品調達を担っており、地域発の情報にもとづき機内誌との連携を取りながら、生産者へのアプローチから商品の魅力発信までを一貫して行っています。



就航地の産品を紹介(ピュアホワイト・清里町)

●地域課題の実証・解決

地域が抱える課題について、実証実験を重ねながら解決を目指す取り組みです。

人口減少や少子高齢化等を背景に各地域では様々な課題を抱えており、移住定住の促進や関係人口の創出、持続可能な物流ネットワークの構築といった施策を推進しています。これら地域課題に対して、AIRDOでは専門的な知見を有する企業と地域との橋渡しを図ると共に、航空会社として培ってきたリソースを提供することで、課題解決に向けた一翼を担っていきます。

■CSR活動

「人を育てる」「(北海道の)自然を大切にする」「社会に貢献する」ことを3つの柱(活動理念)に定め、北海道をはじめとする地域社会との連携を図りながら、「北海道の翼」としての強みやリソースを活かした社会的課題の解決に取り組んでいます。

●「北海道」との連携・協力

- ◆「連携と協力に関する協定(包括連携協定)」(2011年11月28日締結)
- ◆「災害時における航空機による緊急輸送業務の協力に関する協定」(2014年1月29日締結)

「人を育てる」活動

北海道教育厅と協力し、北海道内小・中学校の「総合的な学習の時間」において「AIRDO航空教室」を実施し、航空の仕事に向き合う姿勢やコミュニケーションの重要性等をお伝えしています。これまでに23,000名を超える児童・生徒さんに受講いただきました。また、札幌市立大学(デザイン学部)との協働ワークや明日のアスリート研究所(アススラボ)様の特別協賛等、地域社会の維持発展のため、北海道の将来を担う「人」を大切にする視点を持った活動に取り組んでいます。



地域に貢献するAIRDOへのメッセージ



大空町長
松川 一正 氏

大空町は、「大空に 人 花 心 育むまち」というまちづくりの基本理念の中、賑わいの創造と関係人口の増大、地域の活性化に努めております。(株)AIRDO様とは、空港利用促進に限らず、地域の産業や観光の振興・関係人口の創出などの具体的取り組みを継続的に行い、両者の価値を高めていきたいと考え、今年の3月に包括連携協定を締結させていただきました。

(株)AIRDO様は1996年(平成8年)に会社が設立され、北海道の翼として道内各地の路線を運航しておりますが、女満別空港には2006年(平成18年)に東京(羽田)＝女満別線の運航を開始していただきました。就航以来、首都圏を中心に多くのお客様をオホーツク地域へ運んでいただいているほか、2013

年(平成25年)には女満別＝仙台線の国内チャーター便、2015年(平成27年)には台湾の高雄との国際チャーター便を運航いただくなど、国内外を問わず様々な場所からのお客様を当地へ運んでいただいております。

少子高齢化や人口減少が進む中、地方で自治体を運営していくためには、自治体だけが頑張るのではなく、地域にかかわるさまざまな企業の方々と一緒にまちづくりをしていくことが大切なのではないかと思っており、今後も(株)AIRDO様との関係をより幅広く、より太く、しっかりとつなげていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



「(北海道の)自然を大切にする」活動

北海道の『ほっかいどう企業の森林づくり』と連携して、2008年から北海道内就航6地域において順次植樹活動を実施しました。2019年からは、最初の植樹を行った千歳・幌加地区にて、育樹(生育不良箇所の補植、枝打ち)や新たな植樹を行っています。また、運航の工夫によるCO₂削減や機内サービスにおけるプラスチック素材の使用削減等、北海道の自然と環境を大切にし将来の世代に引き継いでいく活動に取り組んでいます。



「社会に貢献する」活動

難病と闘う子どもたちの自然体験施設「そらぶちキッズキャンプ」(滝川市)や子ども食堂の支援等を行っています。また「平成30年北海道胆振東部地震」では社員有志等からの義援金の寄付や災害支援者への移動協力、救援物資の輸送協力を実施しました。更に継続的な支援として、機内誌をはじめ各種媒体にて、厚真町、安平町、むかわ町の復興に向けた取り組みを発信しています。

お客様の期待を超える満足を提供できるよう、CS行動指針にもとづき全社一体となってCS(お客様満足)向上に取り組んでいきます

経営企画・IT推進

「北海道の翼」AIRDOとして地域に根差した新しい価値の提供と、コロナ期間中推進した構造改革とソラシドエアとの協業の相乗効果により、具体的な成長軌道への回帰を描いていきます

役割 ● 機能

CS推進室は、AIRDOのCS向上体制の確立に向けて、CSの推進役を担っています。

お客様から寄せられる「ご意見・ご要望」、「お叱り」、「お褒めの言葉」をサービス改善に活かすと共に、CS行動指針の浸透を図る事で社員のCSマインドの醸成に取り組んでいます。

取り組み ● 業務内容

社員一人ひとりがお客様満足の向上に取り組む際の道しるべとなるものが「CS行動指針」です。

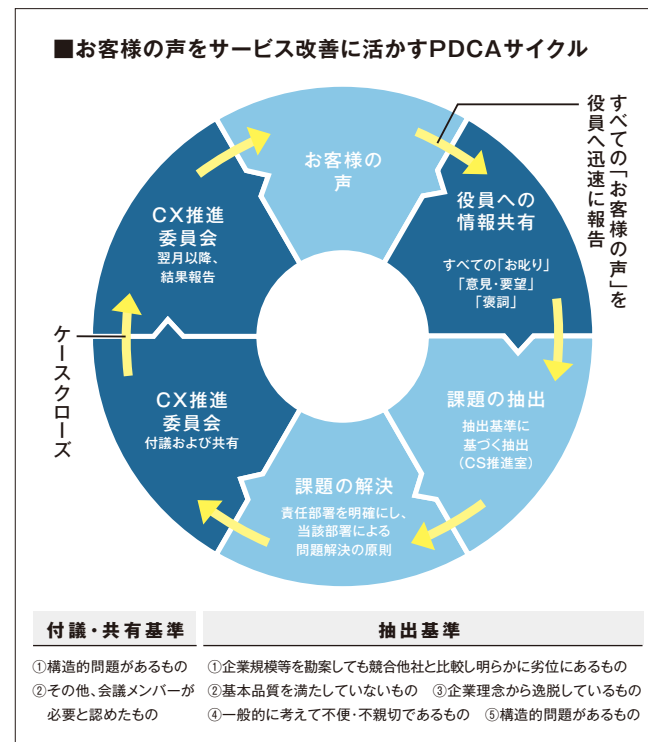
「CS行動指針」は、「安全行動指針」と共に「企業理念」を具現化し、事業運営に反映させていくための両輪となる指針です。(p.5参照)

AIRDOではこの「CS行動指針」にもとづき全社一体となってCS向上に取り組んでいます。

また今後のCS活動においてソラシドエアとの協業を推進し、CS活動を更に活性化していきます。

■お客様の声をサービス改善に活かす仕組み

CS推進室はお客様から寄せられる「ご意見・ご要望」、「お叱り」、「お褒めの言葉」を経営層に報告すると共に、速やかにその内容を分析し関連部署に展開することによりサービスの改善を図っています。



また、「お客様の声」の分析とCX(Customer Experience)を活用した「お客様評価」の測定結果を連動させることにより、新たな目線でタイムリーにお客様のニーズを把握し、全社一体となって更なるサービス改善を図る仕組みもスタートさせています。

■CS向上への取り組み

●CSリーダーによる活動

各部門から推薦され社長の任命を受けたCSリーダーによるミーティングを定期的に開催し、CS活動に関する部門横断的な議論を通じてCS向上に取り組んでいます。また、CSリーダーが中心となって各種イベントの開催や啓蒙活動を行っており、活動実績を社内に広く周知する役割も担っています。



空の日イベント「折り紙教室」の様子

●サービス介助士

CSリーダーの発案により、「サービス介助士」資格の取得を促進するべく、資格取得支援制度を導入しています。現在、AIRDOには357名(2023年10月1日現在)の「サービス介助士」資格者が在籍しており、お客様に寄り添ったサービスのご提供を目指しています。



社内表彰制度

「CS行動指針賞」

「CS行動指針」にもとづいて積極的に行動した社員もしくは組織を年1回表彰する制度です。「お客様から寄せられた声」「社員同士の気づき」「部門単位でのCS活動」を対象とし、審査のうえで表彰を行っています。



役割 ● 機能

日々変化する事業環境・経営環境において、各種経営情報(経営指標や各種分析による検証結果)を集約し役員層の経営判断を支援すると共に、経営戦略の策定・実行、事業計画の立案や予算編成・執行管理業務、通信インフラの構築をはじめ各種システム導入支援といったIT環境の整備、また脱炭素社会の実現を見据えた社会的課題の情報収集等、経営支援機能とライン支援機能を担っているのが、企画部・IT推進部です。

なお、経営の独立性と独自性を維持すべく、機材計画・路線計画についてはAIRDO独自の戦略を策定しています。

取り組み ● 業務内容

① 機材計画

AIRDOでは就航路線の特性に鑑み、需給適合の観点から中型機材と小型機材の2機種体制で運航しています。

商品競争力の強化と更なる安定的な輸送体制、並びに低燃費運航とを実現すべく、当初計画を前倒し2026年度からの新機材の導入を視野に機材更新計画を策定していきます。

② 路線計画

就航率や定時性をはじめとした運航品質の向上と、季節需要に応じた機材適合や積極的な臨時便運航等、利便性と収益性の高いダイヤ編成を目指しています。また、2022年7月より新千歳ー福岡路線に続き、2023年3月から新千歳ー仙台線を1日1往復増便しました。また、多客期間をはじめ需要動向に応じた積極的な定期増便に努めています。引き続き成長戦略に繋がる路線展開を志向すると共に、保有機材の最大活用に関わる効率的運航を志向し収益性の向上に取り組んでいきます。

③ 設備投資

安全性の向上に加え、お客様サービスや収益性の向上、ソラシドエアとの協業を支え、生産性向上に繋がる設備投資を行っていきます。ITや諸施設展開をはじめとして、リージョナルプラスグループとしてスケールメリットを活かし、投資効率の向上を図っていきます。

④ 業務提携

AIRDOは主要株主であるANAホールディングス(株)様とそのグループ会社との間で、共同運航による座席販売、航空機・燃料等の調達、航空機整備等の関連業務を委託する等、幅広い分野での業務提携を行っています。



Topics

■航空機材の更新に向けて

●当初(2022~2026年度)の中期経営計画では、機材の更新については、2027年度以降としておりましたが、当初の計画よりも前倒しての更新に向けて検討を進めています。

機材更新に当たっては、安全性はもとより、快適性、経済性、事業の安定性、そして脱炭素社会に寄与すること等、多角度からの考察を行っていきます。

■現行の使用機材

ボーイング 767-300ER

全長54.94m、全幅47.57m、全高15.85m
座席数288席
最大飛行高度* 約13,150m 巡航速度* 約862km/h

ボーイング 737-700

全長33.60m、全幅35.80m、全高12.50m
座席数144席
最大飛行高度* 約12,500m 巡航速度* 約830km/h

※AIRDOの運航諸元による

人財・組織

プロフェッショナルな人財の確保・育成を図ると共に、
社員のエンゲージメントに資する環境整備を行っていきます

コーポレート ガバナンス

株主をはじめ地域社会を含む様々な
ステークホルダーとの適切な関係を築き、
持続的な企業価値向上を目指します

役割 ● 機能

社員の採用や育成、給与体系を含めた処遇の検討、人事諸制度全般に関する企画・運用のほか、福利厚生の実施等、AIRDOの全社員がやりがいを持って長く働き続けることのできる職場環境の整備が人事部の役割です。

また、会社の経営方針とビジョンの実現に向け、人事組織に関する基本的な方針と人財戦略の策定を行い、組織と人財の連携・強化を図ることで、AIRDOの更なる発展的な成長を見据えた、強固な基盤を構築する役割を担っています。



取り組み ● 業務内容

2023年4月に、スピード感のある意思決定と効率的な組織運営を目的に人事機能を総務部より独立させて人事部を新設し、柔軟な働き方の推進や多様な人財の確保と育成に向けた取り組みを加速させています。そうした中、POSTコロナにおいて急速に回復する航空需要に対応するためのプロフェッショナルな人財の確保と育成に向け、コロナ禍で一時休止していた対面コミュニケーションを重視した採用活動と社内研修を展開しています。また、働きやすい環境整備と健康経営*1を引き続き推進すると共に、これまで行っていた社員満足度の調査に加え、2022年度からはエンゲージメント*2の指標も追加した意識調査を実施しており、社員のワークライフバランスとモチベーションの向上を目指しています。

- ※1 健康経営…従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること
- ※2 エンゲージメント…社員の仕事に対する情熱やコミットメントの意識を示す指標

Topics

■2023年度(今後)の取り組み

●2022年～2026年度中期経営計画を実現すべく、チャレンジ意欲とモチベーションの向上を重視した人事諸制度の検討、設計を進めています。併せて、企業型確定拠出年金の導入や社内マネーセミナーの開催、福利厚生の拡充を図り、社員により使いやすい制度を検討しています。また、北海道との連携強化、新規事業を行える推進体制を構築し組織強化をしていきます。

- 事業展開等を見据えたプロフェッショナルな人財確保を行い、社員育成の観点では、引き続き自ら考え行動できるチャレンジングな人財の育成を図っていきます。
- 働き方改革への取り組み強化や健康経営の推進を行い、エンゲージメント向上に努めていきます。
- ソラシディアとの共同持株会社設立に伴い、知見の共有や業務の協業化を進め、生産性向上に資する施策を検討・検証のうえ、それを具現化することで協業効果の最大化を図っていきます。



就活セミナー



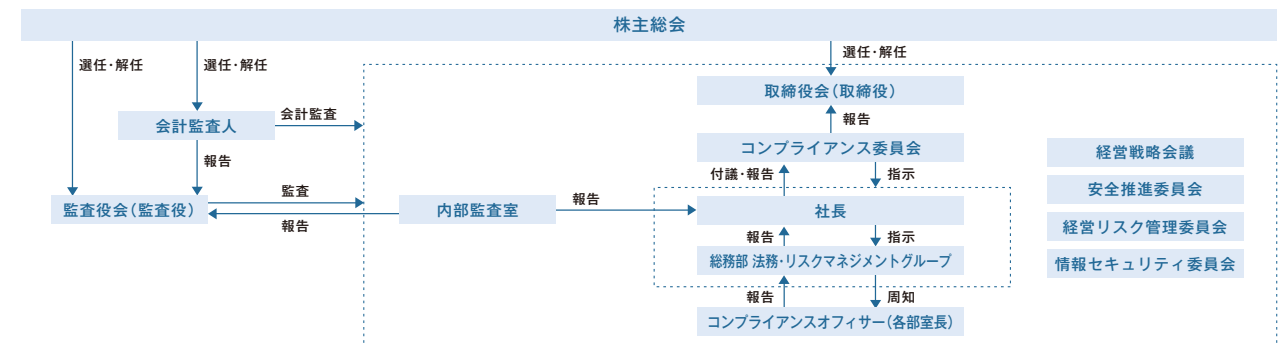
新入社員研修



健康経営 銀の認定取得

運営体制

■コーポレートガバナンス体制



当社は、会社法上の機関設計として監査役会設置会社を選択し、監査役会が経営を監視し、会計監査人を含めた体制によりガバナンス強化を図っています。取締役会は、適切かつ迅速な意思決定ができるよう任期を1年とする取締役5名で構成されています。

■取締役会

定時取締役会は原則2カ月に1回、および定時株主総会後に開催しており、代表取締役社長が議長を務め、取締役5名の構成となっており、監査役1名、社外監査役2名が出席します。重要事項の決定および取締役の業務執行状況の監督を行うほか、法令または定款に定める事項を決議します。

■監査役会

当社は、監査役1名および社外監査役2名により構成される監査役会を設置しています。監査役は取締役会、経営戦略会議等の社内重要会議に出席すると共に、部室店単位の監査役監査を定期的に行い、取締役の業務執行について適正に監査を行っています。

■会計監査人

当社は会計監査人設置会社であり、有限責任監査法人トーマツにより定期的に監査を受けています。

■内部監査

社長直属の内部監査室が内部監査を定期的を実施し、すべての業務が法令、定款および社内規程に準拠して適切かつ合理的に行われているか、また、コンプライアンス、リスク管理を含む内部管理体制が適切かつ有効であるかの検証を行い、会社の財産の保全並びに経営効率の向上に努めています。監査結果は速やかに社長に報告すると共に、必要に応じて取締役会に報告します。

■経営戦略会議

当社は、業務執行上の主要な案件について経営戦略会議において審議し意思決定します。経営戦略会議は基本毎月2回開催され、代表取締役社長が議長を務め、取締役、監査役、執行役員および代表取締役

役社長が指名する者によって構成されています。審議内容は会社業務の統括、経営全般に関する方針および計画並びに業務執行に関する重要事項です。

■安全推進委員会

代表取締役社長、取締役、監査役、安全統括管理者、各生産部門の
本部長等により構成され、安全に関わる重要事項の最高決議機関とし
て、毎月1回開催しています。安全に関する重要事項の決定、安全目
標・安全指標の進捗確認、マネジメントレビューの定期的な実施、組織
を横断した情報の共有、安全管理システムの推進・改善等を行います。
会議の席上では、各部門から月次報告があり、再発防止策、未然防止活
動実施状況の確認等について討議・承認されます。併せて、安全推進
委員会委員長および安全統括管理者から安全に関する指示等が示さ
れます。

■コンプライアンス委員会

コンプライアンス推進等に係る諮問委員会としてコンプライアンス推進方針・規程・マニュアル等の審議並びにコンプライアンス体制の整備・改善状況の審議・検証等を行います。

■情報セキュリティ委員会

情報セキュリティに関する最上位の意思決定機関として、企業情報の適切な運用、並びに情報システム障害やサイバー攻撃等への対応力強化に向けた方針・対策の立案・推進を担っています。

■経営リスク管理委員会

当社が事業活動において直面する経営上のリスクを適切に管理するため、効果的な経営リスク管理体制の構築および運営を行います。

当社は、現在は上場会社ではありませんが、東京証券取引所が策定した「コーポレートガバナンス・コード」を参考にコーポレートガバナンスを継続的に充実させ、活力ある企業風土を創造していきます。

● 財 務 状 況

2022年度の業績等の概要

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの影響が残るものの、WITHコロナ方針のもとでの各種政策による効果もあり、緩やかに持ち直しの動きがみられました。国内航空業界においては、ワクチン接種の進捗や社会経済活動の維持に向けた機運醸成等により、国内線における旅客需要の回復が鮮明となりました。一方で、ウクライナ情勢等の影響を受けた原油価格の高止まりや、各国の金融政策等を起因とした急激な為替変動により予断を許さない状態が続きました。

このような状況のもと、当社の業績等の概要は以下の通りとなりました。

①営業収入 運航規模を全便運航に戻し、回復する旅客需要の積極的な取り込みを図ったことに加え、2022年7月より7年ぶりの新規路線である新千歳ー福岡線を就航しました。 その結果、 41,509百万円 (前年同期比 52.0%増)となりました。	③販売費および一般管理費 販売手数料等の営業関連費用が増加したこと等により、 3,673百万円 (同13.8%増)となりました。
②事業費 運航便数が増加したことに伴い、航空燃油費等の直接運航経費が増加したこと等により、 35,219百万円 (同22.2%増)となりました。	④ユニットコスト(1座席1キロ当たりの費用) 航空燃油費の増加等により、 9.32円 (前年同期9.19円)となりました。
	⑤当期純利益 4,222百万円 (前年同期比―)の当期純利益となり、3期ぶりの黒字を達成しました。

損益計算書 単位:百万円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
営業収入	44,872	45,545	17,413	27,313	41,509
事業費	37,347	38,988	27,402	28,819	35,219
営業総利益(▲は損失)	7,525	6,557	▲9,988	▲1,505	6,290
販売費および一般管理費	4,479	4,281	3,007	3,229	3,673
営業利益(▲は損失)	3,045	2,275	▲12,996	▲4,735	2,616
営業外収益	191	213	741	538	214
営業外費用	858	859	935	496	447
経常利益(▲は損失)	2,378	1,629	▲13,190	▲4,692	2,383
特別利益	—	—	—	921	—
特別損失	—	—	194	88	265
税引前当期純利益(▲は損失)	2,378	1,629	▲13,384	▲3,860	2,117
法人税、住民税および事業税	1,260	6	12	17	18
法人税等調整額	17	1,198	▲1,216	▲1,510	▲2,123
当期純利益(▲は損失)	1,099	424	▲12,180	▲2,367	4,222
1株当たり当期純利益金額(円)	23,653.34	9,122.61	▲261,937.62	▲55,177.40	90,805.11
1株当たり配当額(円)	3,000	—	—	—	—
配当性向(%)	12.7	—	—	—	—

貸借対照表 単位:百万円

	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末
資産の部	50,276	45,543	41,739	48,850	41,349
流動資産	21,480	20,808	18,849	22,714	17,717
固定資産	28,796	24,735	22,890	26,136	23,631
有形固定資産	18,024	15,757	13,331	16,074	17,331
無形固定資産	535	473	405	141	46
投資その他の資産	10,236	8,503	9,153	9,920	6,253
負債の部	36,424	32,692	39,534	40,745	30,990
流動負債	12,740	14,263	11,701	12,235	10,357
固定負債	23,684	18,428	27,832	28,510	20,632
純資産の部	13,851	12,851	2,205	8,105	10,359
株主資本	13,636	13,921	1,741	6,226	10,250
資本金	2,325	2,325	2,325	100	100
資本剰余金	947	947	947	8,641	5,927
利益準備金	183	197	197	—	—
繰越利益剰余金	10,180	10,450	▲1,729	▲2,514	4,222
評価・換算差額等	215	▲1,070	464	1,878	109
負債純資産合計	50,276	45,543	41,739	48,850	41,349
1株当たり純資産額(円)	297,882.56	276,364.05	47,431.08	19,499.37	66,224.03

設備投資

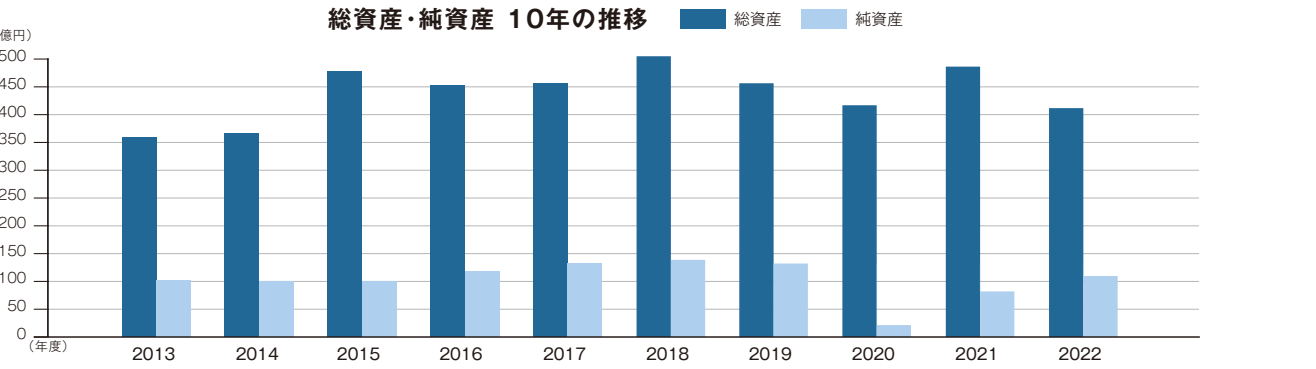
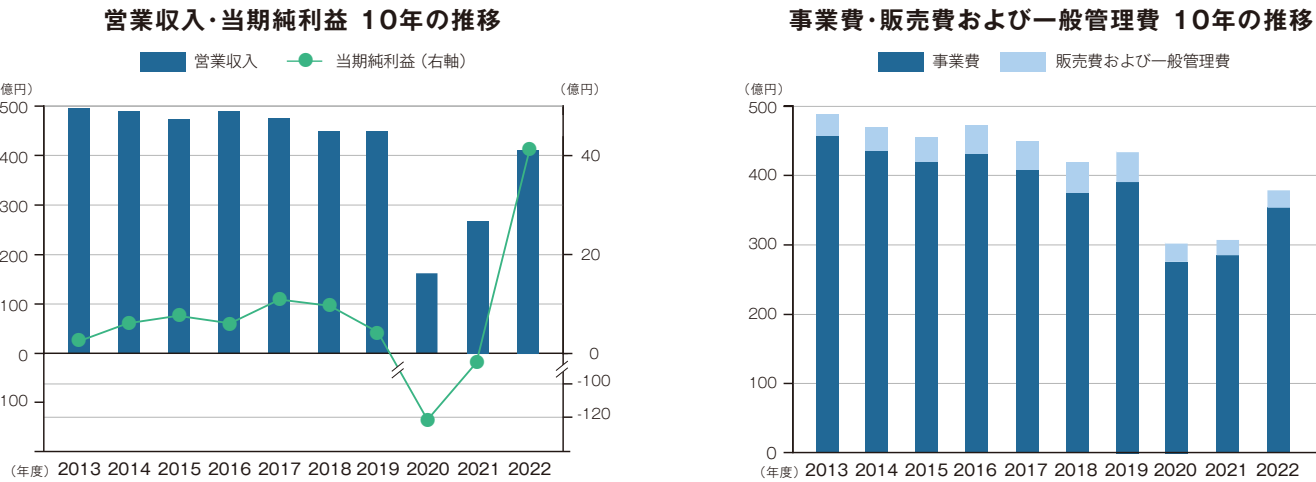
当事業年度に実施した設備投資の総額は69百万円です。

原油価格変動リスクに係るヘッジについて

当社は、将来の原油価格変動を抑制し、コストを安定させることを目的として、デリバティブ取引を用いておりヘッジ会計を適用しています。対象期間の2年前からヘッジを実施していますが、リスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針です。

キャッシュ・フロー計算書 単位:百万円

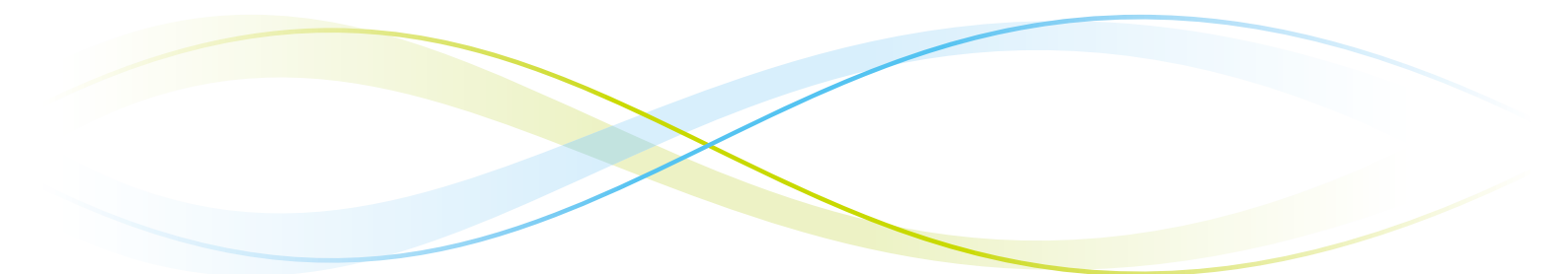
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
現金および現金同等物の期首残高	11,865	13,766	13,385	15,809	16,378
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,376	5,509	▲9,975	▲1,004	1,549
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,221	▲4,598	1,822	▲2,362	▲346
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,268	▲1,251	10,489	3,752	▲4,359
その他	14	▲39	87	184	296
現金および現金同等物の期末残高	13,766	13,385	15,809	16,378	13,517



RegionalPlus

Report 2023

株式会社リージョナルプラスウイングス



企業情報

会社概要

名称	株式会社リージョナルプラスウイングス (英文名称 RegionalPlus Wings Corp.)
事業内容	株式会社AIRDO、株式会社ソラシドエア両社の株式を所有することにより、経営管理およびこれに附帯する業務を行うこと、ならびに両社の事業に附帯又は関連する一切の事業を営む
本社所在地	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 第1旅客ターミナルビル
代表者の役職・氏名	代表取締役会長 鈴木 貴博 (現 株式会社AIRDO 代表取締役社長) 代表取締役社長 高橋 宏輔 (現 株式会社ソラシドエア 代表取締役社長)
設立日	2022年10月3日
資本金	1億円
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間

役員一覧

代表取締役会長	鈴木 貴博
代表取締役社長	高橋 宏輔
取締役	峯尾 隆史
取締役	手嶋 通晴
取締役	福田 健吉
取締役	谷崎 太
監査役	磯根 周二
監査役	平尾 清之
監査役	日高 雄一郎

経営理念

グループ経営理念

地域をつなぐエアライングループとして、
安心な旅と新たな価値の提供を通じて、地域社会の発展に貢献します

安全	安全は経営の基盤であり、絶対的使命として追求します
地域	地域とともに成長するグループを目指し、地域社会の発展に貢献します
価値提供	グループ各社のブランドと航空ネットワークを活用し、新たな需要および価値を創出します
社会貢献	社会・環境課題へ取り組み、持続的な社会の実現に貢献します
経営基盤	グループの経営資源を最大限活用し、業務共通化や知見共有等を通じて経営基盤を強化します
社員・風土	グループ全社員が最大の財産であり、個性と多様性を認め合い、相互に信頼し磨き合える組織風土を作ります

【グループロゴ】

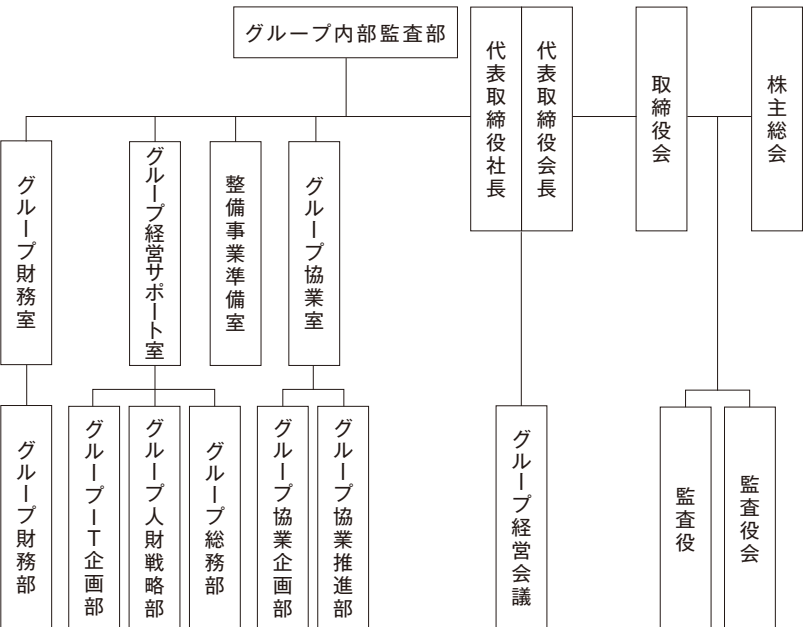


RegionalPlus 

【ロゴコンセプト】

2つの航空会社の協業によるシナジー効果の大きい可能性を「無限大∞」で表現したデザイン。北と南の空の軌跡が交わり、Rを囲みひろがっていく姿は、地域と共に持続的に成長・発展していくリージョナルプラスを象徴。その先に輝くプラスは、新しい価値の創出(プラス)と共に、未来へ飛躍する航空機も表現しています。カラーは、2社のブランドイメージカラーを融合し、共創のハーモニーを訴求。略称RegionalPlusを組み合わせたグループロゴの構成です。

組織図



ご挨拶



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

AIRDOとソラシドエアは、2022年10月、「地域(リージョナル)に寄り添い続け、“北海道の翼”、“九州・沖縄の翼”の2つの翼(ウイングス)で、新たな需要と価値を創出(プラス)する」という想いを込めて、共同持株会社「リージョナルプラスウイングス」を設立しました。

当社の設立ならびに両社の今後の成長・発展に期待を寄せていただいている株主の皆様、関係の皆様、そして何よりも両社のブランドやサービスに共感いただき日ごろよりご愛顧いただいている多くのお客様に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染症5類への移行により名実ともにポストコロナの時代へシフトしていますが、依然として不確実性の高い経済環境に直面しております。どのような環境下にあっても、安全運航を第一に、常にお客様の利便性と満足度の向上に向け、社員一同日々努力を積み重ねております。多様化するニーズや社会動向を羅針盤に“変革”と“挑戦マインド”を忘

れず、お客様から選ばれ続け、地域社会から必要とされるエアライングループへの成長を目指すとともに、グループ経営体制の下で経営基盤の強化・改善に向けて、両社による協業活動を引き続き推進してまいります。

私たちは、地域をつなぐエアライングループ、そして地域に根差した企業として、航空運送事業を中心に当社グループが有する経営資源やノウハウを活かして、社会との共生、とりわけ地域社会との共創を通じて新たな需要と価値を創造し、持続可能な社会の維持・発展に貢献していきます。

今後とも皆様からのさらなるご支援ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2023年11月

株式会社リージョナルプラスウイングス

代表取締役会長 鈴木 貴博

代表取締役社長 高橋 宏輔

路線展開

株式会社AIRDO

北海道と本州・福岡間を結ぶ「北海道の翼」として、
11都市で11路線を1日**64便***運航しています。

*新千歳—羽田間の深夜便を含む

【運航路線】

新千歳 ↔ 羽田	新千歳 ↔ 仙台
旭川 ↔ 羽田	新千歳 ↔ 中部
函館 ↔ 羽田	新千歳 ↔ 神戸
女満別 ↔ 羽田	新千歳 ↔ 福岡
帯広 ↔ 羽田	函館 ↔ 中部
釧路 ↔ 羽田	



株式会社ソラシドエア

九州・沖縄・本州間を結ぶ「九州・沖縄の翼」として、
11都市で14路線を1日**80便**運航しています。

【運航路線】

宮崎 ↔ 羽田	鹿児島 ↔ 那覇	石垣 ↔ 那覇
熊本 ↔ 羽田	宮崎 ↔ 那覇	福岡 ↔ 那覇
長崎 ↔ 羽田	神戸 ↔ 那覇	
鹿児島 ↔ 羽田	中部 ↔ 那覇	
大分 ↔ 羽田		
那覇 ↔ 羽田		
鹿児島 ↔ 中部		
宮崎 ↔ 中部		



グループ会社紹介



株式会社ソラシドエア

ソラシドエアは本社を宮崎県宮崎市に構え、地域に根差した“九州・沖縄の翼”として、
おもに羽田・沖縄と九州を結ぶ路線を運航しています。

機材はボーイング 737-800型機を14機揃え、

平均81cmのゆとりある座席間隔（一部機材を除く）で快適な機内環境を提供しています。

ブランドプロミス『空から笑顔の種をまく。』のもと、お客様のニーズに合わせたソラシドエアらしいおもてなしで
“笑顔ひろがる心地よい”サービスを追求しています。



会社概要

商号	株式会社ソラシドエア（英語表記 Solaseed Air Inc.）
本社所在地	宮崎県宮崎市大字赤江 宮崎空港内（宮崎空港ビル2階）
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 高橋 宏輔
設立年月日	1997年7月3日
資本金	1億円
従業員数	1,039名
保有機材	B737-800型機 14機

2023年10月1日現在